



同窓会創立70周年記念事業において、会員からのご寄付により再整備
(木道をチップに変更し、新しいベンチを設置。
令和5年11月完成)を行った。



松 涛

No.42

2025. 3. 10

主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	4
常任幹事会報告	5
今年度の活動計画	5
同窓会会計報告	6
支部だより	7
職場紹介	10
ペンリレー 同窓生からのたより	11
嵐丘庭の草刈り	13
トピックス	14
国際交流	15
学部だより	16
農学部の動向	16
ファイールド科学教育研究センターの 新たな取り組み	18

同窓会長挨拶

同窓会長 大嶋 良 夫
(昭58農工)



皆さん初めまして。この度、渡辺仁前会長の後を引き継ぎ、新たに同窓会長を務めることになりました昭和58農業工学科卒の大嶋です。同窓会員の皆様には、日頃から同窓会の活動にご理解とご支援、ご協力を頂いております。ことに心より感謝を申し上げます。渡辺前会長に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

最初に簡単に自己紹介をさせて頂きます。私は昭和35年4月、新潟県の新津市(現新潟市秋葉区)に生まれ、地元の小・中・高から昭和54年に農学部(農業工学科)に入学しました。(いわゆる「共通一次試験」を経験した最初の受験生です。)大学時代はあまり勉強に熱心な方ではありませんでしたが、当時の先生方や友人達のお陰で無事に卒業することができました。大学卒業後は新潟県の職員となり、以来38

年間、農業土木の技術職員として新潟県内各地で勤務し、主に土地改良事業に関する仕事をしてきました。令和3年3月に新潟県を定年退職し、現在は新潟市内の民間企業に勤めています。同窓会での私の経歴は、これまで職

域幹事や新潟県支部の役員、同窓会副会長を務めさせて頂きました。最近では、同窓会創立70周年記念事業実行委員会の副実行委員長・祝賀会リーダーを仰せつかり、微力ながらも記念事業の成功に貢献できたのではないかと思います。その後、令和6年7月13日に開催された農学部同窓会2024年度常任幹事会において新たな役員が選出され、不肖私が同窓会長を務めることとなった次第です。

渡辺前会長には、2期8年もの永きに渡り同窓会長を務めていただき、同窓会活動に大変なご尽力を頂きました。特に2期目の4年間は、新型コロナウイルスの影響により、対人関係も含め多くの行動制限を受ける中で、同窓会創立70周年の2年前の令和3年に実行員会を立ち上げ、自らの中心となつて記念事業の成功に向けて準備を進められました。令和5年5月に行動制限が緩和されたともあります

が、渡辺前会長の強いリーダーシップが記念事業の成功に繋がったと考えています。また全学同窓会では、渡辺前会長は副会長を務められました。令和4年には、新型コロナウィルスの影響により3年ぶりの開催となった新潟大学・全学同窓会交流会を担当学部として無事に成功させるなど、その活躍によつて大学や全学同窓会における農学部同窓会への評価も大いに高めて頂いたと思います。渡辺前会長におかれましては、これからも同総会及び我々同窓生に対してご指導、ご助言など頂ければ幸いです。本当にありがとうございます。

さて、ここからは私の同窓会長としてのこれまでの活動について報告させて頂きます。まず令和6年7月13日の幹事会において、私を含めた新たな役員が選出された後、2024年度の活動計画(案)と事業予算(案)をお諮り致しました。まず活動計画については、農学部図書館や農学部学生の就職力育成事業への支援等を中心に例年どおりの事業を実施していくこととし、続く事業予算については、活動計画を踏まえ総額589万円余の予算を計上し、それぞれご承認を頂きました。今後も学部と連携しご承認いただいた各種の事業を実施して参ります。

また幹事会に引き続き開催された総会(4年に1回)では、これまで大変なご尽力を頂いた渡辺前会長に同総会からの感謝の意を込めて、私から感謝状と記念品を贈呈させて頂きました。

その後、幹事会での議事内容や各県支部からの活動報告を頂き、渡辺広治70周年記念事業実行委員会委員長からは記念事業の概要をご報告頂きました。実行委員会の先頭に立つて記念事業を成功に導いて頂いた渡辺実行委員長にも心から感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。

さて、その後の総会の席でのことですが、出席されていた同窓生の方から次のようなご意見を頂戴いたしました。「我々の同窓生であり、ネパール・ムスタンの農業振興に生涯を捧げられた近藤亨先生について知りたいと思いが、近藤先生を承知している人が誰もいなかったのは非常に残念である。大学や同窓会として近藤先生をもっと顕彰してもよいのではないか。」

ご存じの方も多いかと思いますが、近藤亨先生は新潟県立農林専門学校(現・新潟大学農学部)を卒業され、新潟大学農学部助教授を経て、新潟県園芸試験場の研究員となられた後、国際協力事業団(JICA)の果樹栽培専門家としてネパールに渡られ、以後十数年間、ネパール・ムスタン地域の農業振興や教育、医療などに多大なご貢献をされた方です。標高2,750mのムスタン・ティニ村の耕地で世界最高地の稲作に取組み成功された様子などがテレビで放映されたこともあり、私も近藤亨先生のお名前や特徴的なお姿(立派な髭を貯えていらつしや

いました。生前に一度だけ新潟駅前でお見かけしたことがあります。)は承知していましたが、恥ずかしながら同窓生でいらつしやることは承知しておりませんでした。近藤先生は2016年に94歳でお亡くなりになりましたが、生前にはご功績が称えられ、国内やネパールで数々の名誉ある賞を受賞されるなど、大変立派な方であったと思っております。しかしながら私が知る限りでは、大学や同窓会に近藤先生に関する情報を見聞きしたことはありません。頂戴したご意見は大変貴重であり大事なことであると思えます。同窓会としてどういったことができるか、農学部の方とも相談しながら検討したいと思えます。同窓生の皆様もご意見などございましたら農学部同窓会事務局までお寄せ下さい。同窓会のEmailアドレスは以下のとおりです。

<dousou@agr.nigata-u.ac.jp>
さて、その後の活動についての続きですが、同窓会長の初仕事として令和6年7月20日に「全学同窓会と新潟大学との懇談会及び懇親会」(於…新潟大学総合教育研究棟及び生協第二食堂)に出席を致しました。これは新潟大学牛木学長をはじめとする理事、副学長、各学部長など大学の先生方と全学同窓会白桦会長をはじめとする各学部同窓会長(理事)、役員等が一堂に会し、双方の活動等を報告し合いながら、情報共有と相互理解を図ることを目的とするものです。和気藹々とした雰囲気ではありましたが、初めて出席

させて頂いた私は若干の緊張を感じながら、農学部同窓会の近況(70周年記念事業、嵐丘庭の保全活動、総会の開催及び今年度の活動計画)について報告させて頂きました。その後開催された懇親会では、久しぶりに訪れた生協第二食堂に懐かしく思いつつ、他の出席者の方々と楽しく懇談させて頂きました。

また同8月19日には全学同窓会の納涼会を兼ねた懇談会(於…アートホテル新潟駅前)に出席し、新潟大学創立75周年記念事業への全学同窓会の対応等について理事の皆さんと話し合いを行いました。

その新潟大学創立75周年記念事業については、同10月19日に記念式典・祝賀会(於…ANAクラウンプラザホテル新潟)が開催され、農学部同窓会からは役員、事務局合わせて9名が参加いたしました。当日の式典・祝賀会とも国内外の産・官・学の各方面から約450名という大変多くの皆さんが出席をされ、改めて新潟大学と各界とのつながりの広さ・深さを感じたところです。75周年記念事業のキヤッチコピーである「新たな挑戦 大きな貢献」の実現に向けて、新潟大学の益々のご発展と先生方の益々のご活躍をご期待申し上げる次第です。本当におめでとうございました。

年末も近づいた12月14日には、ご案内を頂いた「長野県支部 第24回総会・交流会」(於…ホテル信濃路)に出席をさせて頂きました。総会終了後に私

から「農学部及び同窓会の近況」について少々お話をさせて頂き、その後の交流会では長野県支部の皆さんと楽しく懇談させて頂きました。大変お世話になり、ありがとうございます。長野県支部の益々のご発展をご祈念申し上げますとともに、今後とも同窓会活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

振り返ってみますと、令和6年という年は、1月1日の能登半島地震に始まり、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発令されるきっかけとなった8月8日の宮崎県日向灘を震源とする地震に加え、夏季を中心に全国各地で頻発した連日の猛暑日やゲリラ豪雨、8月下旬から9月初旬に西日本から東日本の太平洋側を中心に大きな被害をもたらした台風10号、そして9月下旬に能登半島を再び襲った豪雨災害、更には10月17日に全国1例目が報告されてから、11月末時点で既に121万羽が殺処分の対象となるという過去最多のペースで感染が広がる鳥インフルエンザ等々、日本全体が自然の猛威に晒され続けた1年であったような気がします。このような自然災害は我が国の農業に少なくない影響を与えており、加えて地球規模の気候変動による農産物の生産減少、人口増加等による食料需要の増大、世界各地で起こる紛争や疫病の影響など、我が国の食料供給に更に大きな影響を及ぼす可能性があります。そのような中、昨年6月に

改正・施行された「食料・農業・農村基本法」では、初めて「食料安全保障の確保」が規定され、「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを手でできる状態」と定義されました。またこれに先立つ令和4年7月には、農林漁業及び食品産業の持続的な発展と環境への負荷の少ない健全な経済の発展等を図ることを目的とする「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律(みどりの食料システム法)」が施行されました。これらが目指すところは現状を考えると相当高いところにあるように感じざるを得ませんが、一方で私たちが将来に渡って安心して生活し続けていくためには、どちらも欠かせないものであることも事実です。食料への不安が高まるなか、令和7年が持続可能な「食料安全保障の確保」のスタートの年となることを願うと同時に、「持続的な農業の発展と環境の保全」を目指す新潟大学農学部の「新たな挑戦 大きな貢献」にも大いに期待申し上げたいと思えます。同窓会といたしましては、これまでどおり学部と連携して学生の皆さんへの支援に繋がる活動を着実に進めていくこととしていきますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い致します。

最後になりますが、同窓生の皆様の益々のご健勝とご活躍、新潟大学農学部の益々のご発展をご祈念申し上げ、挨拶とさせて頂きます。

学部長挨拶

農学部長 西海理之



農学部同窓会会員の皆様には、平素より農学部に温かいご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。同窓会からは本年度も引き続き、国際交流活動、志願者確保のための広報活動、図書室の充実、卒業祝賀会などの諸活動に多大なご支援をいただきました。農学部教職員を代表して心より御礼申し上げます。

令和5年の農学部同窓会70周年記念事業にて整備していた「嵐丘庭」のウッドチップ道ですが、いい感じに引き締まってきて、歩きやすい歩道になっていきます。加えれば、昨秋には出荷できるほどの大量のキノコが出現し、学生や教職員を驚かせました。我々はキノコの鑑定には疎いのですが、どなたかに「食べて美味しいキノコです」と鑑定していただければ、これからの嵐丘庭の名物になるかもしれません。また、令和6年10月19日に行われまし

た新潟大学創立75周年記念式典ではたくさんの方の農学部同窓会会員の皆様にお会いすることができました。大変ありがとうございました。

では、令和6年度を振り返り、農学部の状況を簡単に説明させていただきます。

前号でご報告したように、昨年度末には5名の教員が定年退職され、このうち、三ツ井敏明先生、岡崎桂一先生、箕口秀夫先生、児島清秀先生には新潟大学名誉教授の称号が授与されました。前者3名の先生と一昨年度で定年退職された中田誠先生には、学系フェローとして農学部に関わっていただいています。また、今年度末には、就業力育成科目を担当していた長橋徹助教が任期満了でご退職されました。一方、坂田寧代先生が准教授から教授に、湊菜未先生、大谷真広先生、宮津進先生が助教から准教授に昇任しました。また、教育学部の山口智子先生も准教授から教授に昇任し、教育学部に加えて農学部も担当していた、だくことになりました。さらに、今年度の新潟大学スイングバイ・プログラムにより1名の若手教員（赤澤隆志先生）が着任されました。この他、まだいくつ

か人事が進行中で、令和7年4月には1名の准教授から教授への昇任、1名の准教授採用、1名の助教採用、プラス、新潟大学スイングバイ・プログラムによる2名の助教採用が予定されています。このように、今年度は人事案件が非常に多い1年でした。これらの新陳代謝により、農学部の研究・教育がますます発展することを期待しています。

教育に関しては、平成29年度から始まった1学科5プログラム制は今年度で8年目を迎え、順調に推移しています。ただ、激しく移り変わってゆく社会情勢や学生意識の変化に対応する必要がある、前号でも紹介しましたように、昨年度から若手中堅教員を中心に「農学部の現状と将来を考える」ワーキングチームを立ち上げ、じっくりと時間をかけながら検討してもらっています。そろそろまとまりつつあるとお聞きしていますので、令和7年度からは農学部の教育体制の検討を始める新たなフェーズに入ってくと思われれます。その一方で、農学部の学生が進学する大学院自然科学研究科の体制が大きく変わろうとしています。現段階ではまだ確定していませんが、令和9年度あたりには理系（自然科学研究科）と文系（現代社会文化研究科）が統合されて文理融合の大きな1つの研究科になる方向で進んでいるようです。

農学部の実践的教育の一端を担っている付属フィールド科学教育研究セン

ターの村松ステーション（村松農場）の建物改修が終了し、今年度から新しくなりました。学生がたくさん宿泊できるスペースは減りましたが、農業DX事業の更なる進化を見据えた地域社会との共創のためのスペースを新たに設けています。また、新潟ステーション（新通農場）も、一昨年度からクラウドファンディングを利用した新たな展開にチャレンジしています。農場の教職員や技術職員が減少する中、農場も社会情勢に応じてどんどん変えていかなければなりません。農学部同窓生の皆様におきましては、見学だけでも良いので、新たな姿の農場作りにぜひ関わっていただきたくお願い申し上げます。

国際交流関係では、組織的な交流として今年度申請した文科省世界展開力強化事業（E.U諸国）は残念ながら採択されませんでした。引き続き海外の大学との交流を深め、今後も文科省事業への挑戦を続けてゆく所存です。一方で、コメ共創イノベーションプロジェクトの活動から、ベトナム南部のカントー大学との大学間協定が結ばれ、メコンデルタ流域における農業生産・環境・食品分野での農学部の貢献が大きく期待されています。また、動物分野が中心となって国立台湾大学との協定を締結すべく、昨年度末から準備を始めています。この他、東力ザフスタン工科大学（カザフスタン）教授、カントー大学（ベトナム）学長、チェンマイ大学（タイ）副学長、黒龍江大

2024年度活動計画(案)

学(中国)訪問団の本学部への訪問があり、農学部国際貢献もますます期待されているところです。本学部の国際交流活動については、別に詳細な報告がありますので、こちらもぜひご一読ください。

以上、農学部の現状と活発な活動の一端を紹介させていただきました。本学農学部は、全国の農学部の中でも少ない教員数ながら充実した教育研究活動を行なっているものと自負しています。しかしながら、国立大学の財政は依然として厳しい状況にあり、18歳人口の減少と高齢者の増加、さらには最

近の物価高が進行する中で、新潟大学も教員を減らし続けています。もちろん農学部も教員数的にも財政的にも厳しくなることは明らかですが、そのような中にあっても、農学部の教育研究活動のより一層の活性化を目指して教職員一丸となって努力してゆく所存です。農学部同窓会の皆様には、少しでも変わってゆく新潟大学農学部を、ぜひずっと見守っていただきたく存じます。できれば、さまざまな局面で協働していただき、今後とも農学部への変わらぬご指導ご協力ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

新潟大学農学部常任幹事会・総会が開催されました

常任幹事会・総会が、令和6年7月13日(土)アートホテル新潟駅前において、開催されました。

常任幹事会は渡辺仁会長の議事進行により、物故者への黙とうから始まり、2023年度の各種報告が行われ、続いて新役員選出、執行部提案の2024年度活動計画、事業予算の審議が行われ、承認されました。

幹事会終了後、総会となりましたが、前回(平成28年度)がコロナ禍により中止となったため8年ぶりの開催となり、常任幹事会で承認された役員報告、2期8年に渡って会長を務められた渡辺仁前会長に感謝状及び記念品の贈呈が行われました。また、令和5年に行われた同窓会創立70周年記念事業について、渡辺広治実行委員長から概要報告がありました。

総会終了後は、懇親会開催となり、和やかな歓談が行われました。



本年度は卒業祝賀会や農学部「学術・文化活動への支援」「高校訪問」等の各種事業の活発化が予想されます。その他、学生への学ぶ環境の整備として「農学部図書室への支援」、農学部学生「就業力育成事業への支援」等を中心に、例年どおりの事業を企画し、可能な事項から実施していきます。

1. 「松濤」42号の発行

同窓生からの投稿を促し、また、農学部の「今」をお知らせできる会誌を目指します。

2. 『風丘庭』の維持・管理をととの有効活用を図ります

昨年農学部同窓会創立70周年の記念事業として再整備を行った「風丘庭」の草刈りを実施します。今年度はしばらく中止していた草刈り後の懇親会も実施することとしました。

3. 学部内諸行事への支援

「卒業祝賀会」開催への支援を行います(卒業生出席無料)。

4. 学術・文化活動への支援

農学部が行う国際交流事業、および

農学部フォーラム/K A A Bフォーラム等の学術・文化活動を支援します。

5. 受験者増加への取組みに対する支援(農学部の魅力PR)

農学部を理解してもらうための「高等学校への訪問」及び「高等学校教員の招聘(アドミッションフォーラム)事業」への支援を行います。

6. 農学部在学生のための農学部図書室の充実支援

在学生への具体的な支援の取組として、農学部図書室の充実支援を行います。

7. 農学部学生の就業力育成に係る支援

農学部学生の就業力育成にあたり、卒業生による指導、助言のための講演、研修会などの支援を行います。

8. 全学同窓会活動の運営及び各種行事への参加協力

大嶋会長・全学同窓会副会長
大竹幹事長、在校幹事・運営委員会
委員

2023年度新潟大学農学部同窓会 事業費決算報告 (令和5年5月1日～令和6年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	3,800,000	3,800,000	0	
前年度繰越	1,939,379	1,939,379	0	
利子・雑収入	25	26	1	利息 26 円
合計	5,739,404	5,739,405	1	

2. 支出の部 (円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	700,000	663,967	▲ 36,033	通信費、光熱水料、電話料、謝金、消耗品費等
2. 会議費	500,000	471,654	▲ 28,346	常任幹事会旅費、常任幹事会会場使用料等
3. 名簿情報維持管理費	80,000	156,525	▲ 76,525	名簿データメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	700,550	550	
5. 退職者記念品費	60,000	75,974	15,974	退職教員 5 名
6. 嵐丘庭維持費	100,000	14,462	▲ 85,538	中庭草刈り 1 回
7. 「松涛」発行費	2,000,000	543,457	▲ 1,456,543	「松涛 40 号」
8. 慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	
9. 支部活動助成費	360,000	355,555	▲ 4,445	8 支部 (6 支部 35,550 円、新潟県支部 70,275 円、首都圏支部 70,550 円)、資料送付 1,430 円
10. 学文活動助成費	250,000	0	▲ 250,000	
11. 全学同窓会負担金費	450,000	442,575	▲ 7,425	
12. ホームページ費	10,000	1,000	▲ 9,000	ホームページ更新等
13. 志願者確保対策 助成費(高校訪問助成費)	170,000	13,775	▲ 156,225	教員による高校訪問
14. 農学部図書室充実費	100,000	100,205	205	農学部学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	4,000	▲ 46,000	就職ガイダンス謝礼
16. 予備費	159,404	0	▲ 159,404	
合計	5,739,404	3,543,699	▲ 2,195,705	

3. 差引残高(A) - (B) + (利息 1 円) 2,195,706 円

2024年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算 (令和6年5月1日～令和7年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	3,700,000	3,800,000	▲ 100,000	
前年度繰越	2,195,706	1,939,379	256,327	
利子・雑収入	26	26	0	
合計	5,895,732	5,739,405	156,327	

2. 支出の部 (円)

科 目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
1. 事務局費	700,000	663,967	36,033	全学同窓会交流会・役員会出席補助、通信費、電話料、各支部への出張旅費、謝金、消耗品費等
2. 会議費	600,000	471,654	128,346	常任幹事会開催関係経費等
3. 名簿情報維持管理費	90,000	156,525	▲ 66,525	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	701,000	700,550	450	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	0	75,974	▲ 75,974	定年退職者なし
6. 嵐丘庭維持費	50,000	14,462	35,538	除草等
7. 「松涛」発行費	2,000,000	543,457	1,456,543	「松涛 41、42 号」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	360,000	355,555	4,445	支部活動助成 (6 支部 @ 35,000 首都圏、新潟県 @ 70,000) 振込手数料
10. 学文活動助成費	250,000	0	250,000	3 大学合同研修会、FC シンポ、新大 G P、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	440,000	442,575	▲ 2,575	令和 6 年度入学定員による比率 (%) 8.046 432,300 円
12. ホームページ費	10,000	1,000	9,000	メンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費(出前講義助成費)	170,000	13,775	156,225	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	100,205	▲ 205	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	4,000	46,000	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16. 予備費	324,732	0	324,732	
合計	5,895,732	3,543,699	2,352,033	

2023年度新潟大学農学部同窓会 基金会計報告 (令和5年5月1日～令和6年4月30日)

1. 収入の部 (円)

科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	27,283,994	27,437,804	153,810
基金収入 (入会金)	3,965,806	3,993,767	27,961
利子	167	407	240
合 計	31,249,967	31,431,978	182,011

2. 支出の部 (円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	3,800,880	3,800,000 手数料 880
70 周年事業費	3,001,760	3,000,000 手数料 880 × 2 回
合 計	6,802,640	

3. 次年度への繰越金 (円)

科 目	金 額
収入合計	31,431,978
支出合計	6,802,640
繰 越 金	24,629,338



支部だより

◆首都圏支部

首都圏支部会員の皆様、元気でお過ごしのことと思います。2024（令和6）年の首都圏支部の活動について報告します。

首都圏支部総会を、2024（令和6）年7月6日（土）に、アートホテル日暮里ラングウッドで、昨年に引き続き開催しました。当日は支部会員16名が出席し、支部活動及び会計報告と



支部役員の交代をいたしました。支部長に加藤さんに代わり柳（S58、農工卒）が、幹事に中山さんに代わり岩村さん（S63、畜産卒）が就任しました。

来賓の渡辺会長からは、昨年11月の同窓会発足70周年記念事業について、新潟大学首都圏同窓会会長の成田さん（S58、経済卒）からは、若手卒業生の同窓会参加が少なく各学部とも同じ課題を抱えている現状について話を頂きました。

今年の講演は、丹治さん（S4、院畜産学修了）による「次世代タンパク質く代替タンパク質・培養肉事例の紹介」で、代替タンパク質の作出技術や培養肉の利用状況についての解説でした。

懇親会は、毎回恒例になっている「四季の新潟」の合唱で、楽しいひとときもお開きとなりました。来年も同時期・同会場での総会を予定しています。

翌週の2024（令和6）年7月14日（土）に、アートホテル新潟駅前で、農学部同窓会総会があり、首都圏支部から柳が出席してきました。ここで農学部同窓会の会長に、渡辺さんに代わり大嶋さん（S58、農工卒）が就任しました。大嶋さんは同じ研究室の同級生で、首都圏同窓会会長の成田さん（経

済）も同じS58卒です。これを縁として、同窓会活動を盛り上げていきたいと思えます。

柳 雅之（昭58農工）

◆富山県支部

令和6年は、元日に発生した能登半島地震により、富山県内においても最大震度5強を観測し、全半壊1、062棟を含む約22,000棟の家屋が被災したほか、道路や港湾、水道施設などのインフラ施設にも極めて大きな被害が発生し、県民生活や様々な事業活動に大きな支障が生じました。

また、2,000箇所を超える農地やため池、水路、農道・林道等にも被害が発生したことから、現在、会員の多くがこの復旧・復興に取り組んでいるところであると



佐藤支部長のあいさつ

す。

こうしたなか、令和6年度富山県支部総会及び懇親会を、8月30日（金）に富山市内

の「とやま

自遊館」において、44名の参加をいただき、盛大に開催しました。

総会では、

佐藤宏支部長（S59卒）のあいさつの後、令和5年度活動報告・会計報告、令和6年度事業計画及び収支予算案について協議し、それぞれ承認されました。

総会に続く懇親会では、農学部の佐野義孝先生から、農学部のこれまでの変遷に加え、嵐丘庭の修復状況をはじめとした最近の状況などについて、楽しくご紹介していただきました。

また、県議会副議長である井上学（S56卒）相談役、県議会議員である中川忠昭（S47卒）相談役、のお二方からのご挨拶もあり、会場は大いに盛り上がり楽しいひとときとなりました。

これからも多くの富山県在住の会員、特に若い会員の皆さんにも参加いただけるよう工夫しつつ、活動を盛り上げていきたいと考えています。

平野雅治（平5）



佐野 義孝先生からの大学の近況報告

◆長野県支部

長野県支部でもコロナ禍においては、幹事会・総会等の活動を休止しておりましたが、昨年度から復活させました。今年度も、令和6年12月14日(土)に本部同窓会から大嶋良夫新会長(S58・農工)をお迎えして、支部総会を開催しています。

コロナ禍で2年間以上何も出来なかったことから昨年度は支部通信を発行しました。今年度も第2号として、支部幹事会メンバーが近況報告を兼ねて執筆しています。総会通知とともに送付したところ、返信ハガキに『総会

ウ農家」というワイン造り指導の話が好評でした。

結局のところ総会参加者は9名と例年通りの低調さで、総会の参加者増には支部通信の効果はでていません。しかし、何かしら同窓生の気持ちに響くものがあれば良かったと、自己満足かもしれないが考えています。現代風にSNS等の活用の工夫も必要かもしれません。今のコア参加者である人生の大ベテランにはかえって不都合です。大嶋良夫会長には、遠く長野市までお越しいただき農学部及び同窓会の現状について分かりやすく説明していただきました。

総会後の懇親会では、恒例の近況報告を一人ずつ披露していると開きの時間が近づいてしまいました。大嶋会長ご持参の農学部学生歌の歌詞付き楽譜を見ながら、CDの音声に合わせて2〜3曲を合唱して終了としました。

同窓会活動のみならず、人々の分断が叫ばれる中で、どうやって人と人を繋いでいくのかが問われている時代かもしれません。

増野和彦(林30回)



には出席出来ないが記事は面白かった」とのメモを記してくれ人もいました。特に桜井正二氏(副支部長・農19回)の「小諸のブド

◆福井県支部

北陸新幹線が令和6年3月に福井県

の敦賀まで延伸しました。これまで福井から東京へは滋賀県の米原駅から東海道新幹線に乗り換え約3時間30分を要しましたが、北陸新幹線を利用すれば東京へは3時間と所要時間が30分短縮されました。しかし、利用した方によるとその便利さ、快適さは時間の短縮より、乗り換えなしで行けることの方がよいです。

私が新潟大学の学生だった昭和50年頃は、福井から新潟まで「特急北越」で5時間でした。現在は北陸新幹線「上越妙高駅」で「特急しらゆき」に乗り換えが必要です。接続の良い時間帯で約4時間、所要時間は1時間短くなりましたが、乗り換えの不便さからか福井と新潟が遠くなったように思えます。今の新潟大学生にとって福井と新潟は遠いのでしょうか、近いのでしょうか。

さて、県支部の総会は、令和6年11月27日に福井市内で開催し、12名の参加をいただきました。会計報告に続き、幹事会・総会の参加報告では、役員改選で新会長に大嶋良夫氏が就任されたこと、なお、渡辺前会長には平成29年県支部総会で農学部の近況についてお話しいただきました。遠く福井までお越しいただきありがとうございました。また、支部の活動では各支部とも総会への参加者が少ないなど本県と同様な



悩みがあることを報告しました。最後に、令和7年度から支部会長に仲谷さん、事務局を小谷さんをお願いすることで皆さんの了承を得ました。よろしく願います。

懇親会に移り、恒例の皆さんの近況報告を行い、大学時代の思い出や米作りの現状など農学部出身者ならではの話題で盛り上がりました。久しぶりに参加された方もおられ、限られた時間でしたが、有意義で楽しいひとときを過ごして頂けたと思います。次回は更に多くの方が参加していただけるよう願っています。

2年間でしたが、幹事会や70周年記念式典で新潟へ、何十年ぶりかに見える大学など良い思い出ができました。あ

りがとうございました。

山口 良二（昭55畜）

◆福島県支部

福島県支部同窓会を、2024（令和6）年8月3日、福島駅西口の福島グリーンパレスで開催しました。

今回の同窓会は、平成16年から20年間同窓会長を務められた「高久英昭」氏（第5回卒）の退任に伴う新会長選任が主要議題で、第12回卒の「佐藤洋孝」が新会長に選任されました。

同窓会名簿によりまずと、会員220名が県内におりますが1974（昭和49）年7月1日に、河渡から五十嵐キャンパスに移りましたので、河渡キャンパスを知る会員は、1947（昭和23）年〜1977（昭和52）年に卒業した69名（31パーセント）で、概ね7割が、五十嵐キャンパスの卒業生です。

私は、1960（昭和35）年4月に入学し、1964（昭和39）年3月に卒業しましたが、当時、西大畑町にありました六花寮で、一年半の寮生活の後、小金町に2年半間借りして、3食、河渡の農学部学生食堂を利用していました。

当時の農学部は、アカシヤを中心と

会長引継ぎ 家久来事務局・沢田事務局と佐藤新会長・高久前会長・野内事務局



後の赤・白・黄色の花山が、水田のあちこちに点在する風景の美しさに感動したものでした。

また、アルバイトの家庭教師で礎町に行っておりましたが、寄り道して、西堀、東堀になびく、しだれ柳と堀の風情ある街並み、日本三大花街の一つといわれた古町の老舗割烹や料亭から聞こえる粋な三昧の音を聞きながら、学生服姿で歩いた事がなつかしく思いだされます。

さて、新潟地震【1964（昭和39）年6月16日】及び新潟中越地震【2004（平成16）年10月23日】が思い起こされますが、東日本大震災は、2011（平成23）年3月11日三

する木立に囲まれた静寂地で、周辺は、じゅんさい池、砂丘林地及び水田が広がっています。

特に、水田裏作として栽培されていたチューリップの花摘み

陸沖に発生した、マグニチュード9.0、最大震度7、津波の高さ相馬市9.3メートル、宮古市最大40メートル、加えて東京電力福島第一原子力発電所の事故（放射能汚染）により、死者15900人、行方不明者25200人、住宅全半壊約40万6000戸、避難者34万4000人と未曾有の震災となりました、この被災に對しまして、同級生等多くの方々から物心両面にわたりご支援を頂きました。改めて、心から御礼を申し上げます。

本年、2024（令和6）年は、東日本大震災から数えて13年目にあたりますが、現在の福島県状況を報告申し上げますと、福島県の人口は、2010年10月1日、202万9064人に対し、2024年10月1日では、174万1824人で、28万7240人の減となり、福島県の避難者数は、2012年5月で、16万4864人に対し、2024年8月では、2万5798人と減少しておりますが、今なお県外に1万9969人、県内に5824名が避難生活を余儀なくされています。

一方、2023年8月24日から、東京電力福島第一原子力発電所の1000基のタンクに保管している原発処理水の海洋放出が開始されました。また、東京電力福島第一原子

力発電所の廃炉作業が、ようやく、2024年10月7日から1〜3号機に残る約880トンの核燃料デブリの取り出しを開始したところです。

今後、福島県内外の仮置場等で保管されている東京ドーム11杯分（1400万立方メートル）の放射能汚染土の再生利用法と処分先が、大きな課題となるものと思われま

各自自治体の住民に対する避難指示は、段階的に解除され、2023年5月1日時点では、7市町村（南相馬市、浪江町、葛尾村、双葉町、大熊町、富岡町、飯館村）の一部（計330平方キロ）の帰還困難区域（放射能年間積算線量が50ミリシーベルトを超えており、5年経過しても20ミリシーベルトを下回らない恐れのある地域）だけとなりましたが、今後とも、避難住民のふるさとへの帰還要望にこたえる総合的な施策の推進が必要になってい

以上、東日本大震災の現況についてご報告いたしました。福島県支部会員の多くが、県・市町村や農協等に勤務していますので、現在も、この東日本大震災の復興・再生に取り組んでおります。

今後とも、東日本大震災の復興・再生に、農学部、各県支部のご支援協力をお願い申し上げます。

佐藤洋孝（昭39農）

職場紹介

株式会社タケシヨー

研究開発部リーダー 溝口 契 (平22農生・平24自然研)

【沿革】

株式会社タケシヨーは、1960年に新潟で創業し、食品加工メーカー向け調味料や添加物、研究機関向け試験薬品の卸売を開始しました。その後、ブレンド事業も手掛けるなど少しずつ業態を変え、また、2009年に東京オフィスを開設、新潟から全国へとフィールドを広げて参りました。現在は、卸・開発・製造・エンジンアリング機能を融合させるとも



に、「おいしさを科学する」取り組みを活用し、お客様の競争力向上と事業発展に貢献すべく活動を進めております。2018年からは、ベトナムのカントー大学との共同研究をきっかけに海外にも事業を展開し、翌2019年には、ベトナム現地法人 TAKESHO FOOD VIETNAM CO.LTD. (以下、TFV) を設立。ベトナム・メコンデルタの農水産資源を高付加価値化した自社粉末素材「MilliGlobe」シリーズを上市し、世界の食品加工メーカーにお届けすることで、メコンデルタ地域の食産業の持続可能な発展・国際競争力向上への貢献を目指しております。

【業務概要】

○研究開発部について

私が所属する研究開発部は、新潟県内の米菓メーカー様や水産練り製品メーカー様の製品をはじめとする、皆さんが一度は食べたことがあるであろう商品の、主に味作りのお手伝いをさせていただいております。

研究開発部のメンバー24名の中には新潟大学卒業生も多数在籍しています。主な仕事としては、スーパーやコ



ンビニなどで売られているスナックや米菓に使われている味付け用の粉末調味料の開発、テーマに掲げている「おいしさを科学する」(「おいしさを見る化し共有できるようにするためのノウハウ) 取り組みの深耕や、粉体物性の研究を行っています。

私は、主に、お客様の新製品開発のための提案を行うチームのリーダーとして、9名のメンバーと共に、日々さまざまな食品メーカー様に向けて、お客様がイメージされる「おいしい」味を創り、ご提案しております。

○海外展開について

2019年よりベトナムのカントー市にTFVを設立。加工食品の味の配合設計支援・最適原材料調達・「おいしさを科学する」取り組みを活用した商品開発支援など、これまで日本で

培ってきた情報や技術を用いてベトナムの食の発展への貢献を目指しています。

私自身何度もTFVに赴き、現地メンバーと共に食品素材開発や営業活動に参加しております。日越の文化やおいしさの感じ方などの違いに苦戦しながらも、とても楽しく挑戦させてもらっております。

【新潟大学農学部出身者について】

タケシヨーには27名の農学部出身者がいます。国内外さまざまな部門で活躍しており、研究開発部には私以外にも農学部出身者が4名在籍しています。私と同じく食品開発に携わっていたり、粉体物性などの研究や新規食品素材の開発を行っていたりと、研究開発部だけでも幅広い分野で新潟大学農学部の卒業生が活躍しています。



ペーパー

同窓生からのたより

福島県での研究活動

窪田陽介（平13生環）

新潟大学は、私の研究活動を始めた最初の場所です。現在、私は国立大学法人福島大学の教員として、農業機械やスマート農業に関する教育・研究を行っています。新潟大学在学時は、農業システム工学研究室に所属しており、農産物を対象とした画像処理技術に関する研究を行っていました。研究室での活動は、とても楽しいものであり、大学生活の中でも印象深い日々でした。今でも中野和弘先生や先輩方、同期、後輩とは連絡を取り合う関係性が続いており、大学生活から生涯を通じての親交を得ることができました。

私の近況というと、福島農業の復

興と発展を目指して、福島県内を走り回っております。特に東日本大震災の影響を大きく受けた南相馬市は、私の主な研究フィールドとなっています。同地では、ロボットトラクターや農業用ドローンなどのスマート農機の導入に向けての取り組みや、施設園芸や果樹作で利用可能な農業用ロボットの開発など、労働力の確保が難しい条件での大規模営農につながる研究活動を行っています。このような活動の中において、新潟大学農学部と同窓生からは多大なる協力を得ています。福島県には、2019年まで農学系の大学が無かったため、県内に新潟大学農学部出身者が多く、色々な場面で助けて頂いています。このよう



な経験からも、同窓生との繋がりを感じ、違う場面では私が助力できるような日々研鑽していきたいと考えています。

最後に在校生に向けてとなりますが、新潟大学は、研究はもとより、素晴らしい教員や同窓生を有する教育機関であると感じていきます。そこでの経験は、自身の成長、そして社会貢献につながるものです。とはいえ、まずは大学生活を有意義に過ごすことが重要なので、一日一日を楽しんでください。

今回は、生産環境科学科の同期で、福島市で活躍されている丹野隆央さんにバトンを渡したいと思います。

農学部の先輩後輩

コンビで頑張っています

半澤拓夢（平13生環）

① 近況

大学院の卒業から6年、大学の卒業からは8年も経過しているのはすごく不思議な感覚ですね。現在は神奈川県厚木市にある株式会社ニップの中央研究所で調理冷凍食品の開発業務を行っています。主に冷凍の Pasta や冷凍米飯、最近ではおかずと米飯やPastaがセットのなっている製品の開発を行っています。新卒で会社に入社し最初は冷凍食品の製造工場の配属でしたが、そこで経験を積み開発がどうしてもやりたかったこともあって熱意が上司に伝わったのか、工場経験を生かして今の開発業務をやっています。何の因果か同じチームに数少ない新潟大学の先輩の飯島さん（生産環境科学科出身で学年は2つ上）がいて、2人でニップの調理冷凍食品を牽引できるように日々業務を頑張っています。

す。スーパーマーケットやドラッグストアでニップンの冷凍食品を見かけた際はぜひご購入をお願いします！

③ 最近感動したこと

大谷翔平選手のメジャーリーグでの活躍に感動しました。大谷選手は私と同学年ということもあり、ニュースで見るたびにうれしい気持ちになります、ましてや前人未到の50-50（ホームラン50本・50盗塁）でMVPを獲得したのですから今年の活躍には特に感動しましたし、自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれます。

④ 同窓生・在校生にメッセージ

同窓生のみなさんはそれぞれ30歳を超えて、各々の変化があるのではないのでしょうか。たまに会って話を聞くメンバーの話だと結婚して子育てに奮闘している人もいれば、転職して新しい道に行く人もいますし、私

を新潟大学のいい環境で過ごせることを誇りに思ってください。そして今しかできないことを思い切りやりましょう。可能性は無敵大です！

⑤ 次回の執筆者

同じ研究室の同期の小林哲也さんにお願いました。彼は私と同じ学部・大学院で、ラーメンを愛しすぎるいい意味で変人でした。研究室も同じで一緒に切磋琢磨し、時間も忘れてお互いに研究に没頭していたことを今でも覚えています。地元新潟で活躍していると聞いていますので、近況を聞けるのが非常に楽しみです。

「人」と「農」と

新井大和

（平26生環・

平28自然研修了）

② 趣味
趣味はスノーボードです。大学時代から初めてもう10年近くになります。今は神奈川に住んでいます。冬になると毎年週末は早起きして長岡や上越のスキー場に行くのが習慣になっています。もはや週末限定で新潟県民になっていますね（笑）
また、職業柄食べ歩きをすることも趣味です。美味しそうなお店があれば開発業務に生かせるかな？なんて半分くらいは思いつつもただ美味しいものが食べたくてお店を探しています。ちなみに神奈川の個人的なおすすめは愛川町にある「もつ乃」というもつ煮込みのお店です。ここのお店のもつ煮込みは信じられないくらい柔らかいのですが煮込みの概念が変わります。ぜひ神奈川にいらした際は行ってみてください。

同窓生のみなさんはそれぞれ30歳を超えて、各々の変化があるのではないのでしょうか。たまに会って話を聞くメンバーの話だと結婚して子育てに奮闘している人もいれば、転職して新しい道に行く人もいますし、私みたいな自由気ままに仕事や趣味を謳歌している人もいますね。これからは色々変化がある世代だとおもいますが、それもひっそくめで楽しんでいきたいですね！

在校生のみなさんはこの若い時代



今年度で新潟県の農業教員になり11年が経ちました。大学4年時の12月、いただいた内定を辞退（企業様には多大な迷惑をかけ）し、「もつ」と大学で調査・研究を続けた」、「1から教員免許を取得し、一足先に教育現場で汗を流す友人のように、「農」を通じて生徒の将来に役買いたい」と大学院への進学を決意しました。当時、悩める私の話を親身に聞いてくださり、大学院を進め、後悔のない道を、と物静からながら内に秘めた情熱で激を飛ばしてくださいだった箕口秀夫先生には感謝の言葉しかありません。（一昨年、研究室の先輩とテレビ電話をした折「私も当時、同じことを言われたw」（現在、他県で農業教員として勤務）と伺いました。（今はwでなく草というのでしょうか。）

現在の勤務地は3校目で新潟を代表とする米や酒、多雪地で知られる「十日町」で野菜をメインに携わっています。豊かな自然環境の下で育った素直で健気な優しい生徒たちが囲まれて、充実した日々を送っています。担当科目の中で、今年度地域連携の一つとしてNPO法人「ひとサポ」様を仲介に、「市内飲食店16店舗を対象とした農産物の販売交流会」をスタートさせました。「農業を通じて地域を元気に&市内外へ農や地域の魅力を発信する」をテーマに生徒と奮闘しています。

趣味も農業から離れることがなく、住まいのある小千谷市が運営する滞在型農園「クラインガルテン」の日帰り部門で50㎡の畑を借り、家族で野菜栽培を楽しんでいます。地元の方や滞在される県外出身の方々との交流もあり、先日、身元がバレてしまい（農業教員であること）、栽培管理にますます手の抜けない状況となってしまいました。また来年の11月をめどに夢のマイホームが完

成予定です。庭の一面には、白根のぶどう園を彷彿させるような、ぶどう棚を作り上げ、その下で家族や友人と楽しい宴を、と夢（とローン）が膨らみます。

箕口先生のように森（農）を愛し、抜かりのない教材研究と、学生（生徒）への熱き情熱を自身の教員生活のモットーとし、これからも自身の努力と周囲への感謝を忘れずに励み続けていきます。

今回は同学科同研究室で苦業を共にした同期生で、福井県で学生時代の研究を職に繋がられた出口翔太様にお願いたします。



嵐丘庭の草刈りを 実施しました

今年度も嵐丘庭の草刈り作業等を実施することが出来ました。渡辺仁会長、西海理之学部長の号令の下、新潟県支部会のご協力をいただき6月29日（土）に行われました。

6月の穏やかな日差しの中、同窓会創立70周年記念事業により木道をチップに再整備を行った嵐丘庭を、約1時間程防草シートの敷設や除草等を行いました。

また今年度は作業終了後、コロナ禍のために断念していた昼食を兼ねた情報交換を4年ぶりに行い、オードブルやお弁当・お茶など用意して懇親を深めることができました。



このページは、農学部同窓会創立 70 周年記念講演会において、朝日酒造(株)新野義弘様よりご講演をいただいた資料をまとめたものです。

トピックス

きき酒とは？



朝日酒造株式会社 新野義弘

✓ きき酒の目的

→お酒を表現することにより、情報を共有し、コミュニケーションするため

✓ きき酒をする人によって目的が異なる

→造る人、売る人、飲む人 でそれぞれの目的がある



✓ きき酒 2 つのタイプ

◎ 分析型 (専門家、製造者)

- ・お酒を客観的に評価し、その香りや味の特徴を分析
- ・製造工程管理や品質管理に用いる

◎ 嗜好型 (一般の方)

- ・お酒を主観的に評価し、その特徴より好き嫌いを判定
- ・自分の好みのお酒探しができるようになる♪

✓ きき酒の方法

きき酒で主に活躍する器官



① 目 (視覚)

お酒の色や濁りなどを見る



② 鼻 (嗅覚)

香り・上立香・含み香を感じとる



③ 口・舌 (味覚 など)

味を感じとる (甘味、酸味、苦味、旨み、塩味、辛味、苦味、濃淡、キレなど)

✓ 名人を目指すには

- ◎ 集中する
- ◎ 自分なりの手順
- ◎ 感じたことを記録
- ◎ トレーニング表現方法例



表現方法例

香り

りんご・青リンゴ／バナナ・メロン／青い・草のような／乳製品 (ミルク、チーズ、ヨーグルト) ／熟成の香り (紹興酒、たくあん、糖蜜、蜂蜜) ／麴／穀物の香り／炊いたご飯、ナッツ／アルコール

味

甘み／酸味／苦味／うま味／口当たりの柔らかさ／滑らか／まるやか／味の濃さ／軽快さ／味の幅、広がり／アルコール感／刺激感／エグ味／渋味

後味

甘み／酸味／苦味／渋み／キレ、余韻の長さ／香りの残り方

コメント例

外観

・テリよい ・清澄

香り

・カプロン酸エチル (リンゴ様の吟醸香) 華やか
・脂肪酸 (ちょっと酸っぱい) 若干ある

味

口当たりまるい／舌触りなめらか／お米由来の濃厚な甘さ／若干の渋味で味しめる／酸味しっかり、比較的味のボリュームあり

後味

・甘味の余韻 ・キレあり、残らない

農学部における国際交流について

農学部国際交流委員会委員長 吉川 夏樹

ありました。牛木学長、染谷理事、坪井副学長など農学部外からもご参加いただき、会を盛會裡に終えることができました。

農学部同窓会の皆様には、日頃より農学部の国際交流活動にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の世界的流行は収束し、農学部の国際交流活動も徐々に以前の活気を取り戻しつつあります。ここでは今年度の農学系大学院を含む国際交流活動を紹介いたします。

まずは留学生の受け入れですが、2024年12月現在、23カ国から59名の留学生が農学部担当教員指導のもと勉学に励んでいます。そのうち、学部生は5名、大学院生は54名です。地域別に見ると、中国とアフリカ諸国からの留学生がそれぞれ18名で最も多く、次いでトルコの10名となっています。

す。中国からの留学生は私費がほとんどですが、アフリカ諸国はJICAの研修生、トルコからの留学生は文部科学省の国費留学生が多くを占めています。背景には、

大学院の農学系コースを対象とする文科省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」やJICA事業の積極的な受け入れがあります。留学生は、日々、日本人学生と学業やプライベートで交流しており、日本人学生にとっても国際的な感性を養うという意味で、農学部での学びの幅を広げてきています。12月5日には農学部恒例行事である「留学生と指導教員の懇親会」を開催しました。留学生や指導教員のほか、日本人チューター学生などにも声がけした結果、100名を超える参加が

日本人学生の海外への派遣については、博士後期課程の大学院生がエーゲ大学に、博士前期課程の大学院生がボルドー大学ワイン科学研究所にそれぞれ2ヶ月間留学し、研究のための実験や講義を受講してきました。また、隔年開講の「グローバル農力(短期)」では、農学部教員とアンカラ大学のOguz Can Turgay 先生引率のもと、大学院生2名、学部生3名がトルコに9日間滞在し、現地の農業を視察するとともに、トルコの気候、水田土壌学、アルカリ水田などの講義を受けました。

以上の通り、農学部国際交流委員会では、学部の教育・研究の国際化に努力しております。今後とも、皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

「新潟大学カード」入会のご案内

●新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと連携して「新潟大学カード」を発行しています。

入会費
年会費
無料

この機に是非ともご入会を！

※詳しくはホームページ
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousokai/card/> をご覧ください。



学部だより

新任教員紹介

食品科学プログラム

助教 赤澤隆志



令和6年4月に着任いたしました赤澤隆志と申します。よろしくお願いたします。

岡山県で生まれ育ち、大学から香川に移りました。香川大学農学部に入學し、食品科学の研究を続け、令和2年に愛媛大学連合農学研究科で学位（博士（農学））を取得いたしました。その後、宮城県の県立大学である宮城大学食産業学群で助教として4年間、研究教育に携わり、この度ご縁あり新潟大学で現職に就かせていただいております。
専門は食品タンパク質科学で、タンパク質性食品のおいしさと健康機能性についての研究に取り組んでおります。おいしさの研究では、特に食感の制御に関する研究を行っており、ソーセージや蒲鉾などのタンパ

ク質ゲルの食感を改善する手法を研究しています。健康機能性の研究では、鶏卵の卵白には抗肥満・抗糖尿病作用があることを明らかにし、現在はそのメカニズムや活性成分の特定に取り組んでおります。

新潟大学に異動してからは、県内の特産品である南蛮エビの食感の解析や、ラーメンの麺の咀嚼特性の解析にも着手しております。今後も、新潟県の食産業に役立つような研究を展開する所存です。どうぞよろしくお願いたします。

農学部 学会賞等受賞

学会賞等受賞

- 齋藤嘉人（教員）
- ・ 公益財団法人 コニカミノルタ科学技術振興財団 第30回 コニカミノルタ画像科学奨励賞
- ・ 公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金 エスペック環境研究奨励賞
- ・ 令和6年度新潟大学優秀論文表彰 5件
- ・ 第11回新潟大学学長賞（若手教員研究奨励）

○ 宮川璃空（大学院博士前期1年）

土木学会、構造工学委員会、2024年AI・データサイエンス奨励賞

○ 小畑 悠（大学院博士前期1年）

令和6年度新潟大学博士育成のための論文投稿支援プログラム、学生優秀論文賞

○ 三ツ井敏明（フェロー・名誉教授）

公益財団法人食の新潟国際賞財団 第8回食の新潟国際賞地域未来賞受賞

○ 別府 茂（1977年3月卒業）

食の新潟国際賞 21世紀希望賞

○ 五十嵐竜士（大学院博士前期2年）

第7回北陸線バイオサイエンス研究会優秀ポスター賞

○ 萩原大生（2023年9月修了）

・ 日本材料学会支部技術奨励賞
・ 農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞

○ 坪田到馬（大学院博士前期2年）

・ 土木学会関東支部優秀発表賞
・ 土木学会関東支部新潟会土屋雷蔵賞

○ 岩片奨悟（大学院博士後期2年）

第76回日本生物工学会大会学生優秀発表賞

○ 天野未結（大学院博士前期2年）

第68回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会ベストプレゼンテーション賞

○ 白鳥遥菜（大学院博士前期2年）

ビタミン学会・第2回次世代のビタミン学に繋げるイノベーションミーティング優秀発表賞

○ 坂本 恵（大学院博士前期2年）

令和5年度日本地域学会優秀発表賞
○ M.T. Masud RANA（大学院博士後期課程2年）

・ 令和5年度日本地域学会優秀発表賞

・ 令和6年度日本地域学会優秀発表賞

○ 殷 一格（大学院博士前期2年）

令和6年度日本地域学会優秀発表賞

○ 辺 建隆（大学院博士前期2年）

令和6年度日本地域学会優秀発表賞

○ 阿部春乃（大学院博士前期2年）

第71回日本生態学会大会ポスター賞
○ 渡部大寛（2022年3月修了）

令和5年度新潟大学学生優秀論文賞

○ 清水元樹（2014年3月修了）

日本育種学会奨励賞受賞

○ 鈴木一輝（教員）

・ 日本土壌肥料学会 第43回日本土壌肥料学会奨励賞
・ 令和6年度新潟大学優秀論文表彰 2件

○ 藤野まゆ（大学院博士後期1年）

日本土壌肥料学会2024年度福岡大会 若手口頭発表優秀賞

○ 久野颯斗（大学院博士前期1年）

日本土壌肥料学会2024年度福岡大会 若手ポスター発表優秀賞

○鈴木優里（大学院博士前期2年）
日本土壤肥料学会2024年度
福岡大会 若手口頭発表優秀賞

○永野博彦（教員）
・第11回新潟大学学長賞（若手教員
研究奨励）
・令和6年度新潟大学優秀論文表彰
1件

学位取得

○ギユリズ ドアン（2024年3
月修了）新潟大学大学院自然科学研
究科
博士（農学）、新潟大学

○Boirskaia Anastasia（2024
年3月修了）新潟大学大学院自然科
学研究科
博士（農学）、新潟大学

学会等の開催

○日本災害食学会（2024年8月
24日〜2024年8月25日）、202
4年度学術大会、新潟日報メディア
シップ、大会委員長 藤村忍教授
○北陸作物・育種談話会（2024
年11月15〜16日）、第61回北陸作物・
育種談話会講演会・シンポジウム、
新潟大学駅南キャンパス「ときめい
と」、大会運営委員長 山崎将紀教授

会 員 誌 報

楠原 征治（旧職員）	市川 儀夫（S23・3専農）	前田 浩（S23・3専農）	萬豆 剛一（S23・3専農）	井上隆之介（S25・3専農）	高橋 隆（S25・3専林）	高橋 彬（S26・3専農）	増田 三雄（S26・3専農）	高柳 昭六（S29・3専農）	中山 文也（S30・3専農）	石丸 浩文（S30・3専農）	鈴木 松衛（S31・3専農）	江口 昇（S31・3専農）	富所 憲二（S31・3専農）	脇野久三郎（S32・3専農）	鈴木賢太郎（S32・3専農）	忠 軍治（S32・3専農）	前澤 吉雄（S33・3専農）	川上 満平（S33・3専農）	堺 郁夫（S34・3専農）	木村 幸一（S34・3専農）	鹿島 英治（S35・3専農）	岩上 亘雄（S35・3専農）	大平 幸三（S36・3専農）	早川 力（S38・3専農）	近藤 紘一（S38・3専農）	蓮池 光正（S39・3専農）	佐藤 敦（S41・3専農）
------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------

大角 隆（S41・3専農）	平山 雅之（S41・3専農）	田川 武紘（S42・3専農）	松倉 宏（S42・3専農）	田中力オル（S43・3専農）	栗田 敏夫（S44・3専農）	堀江 憲行（S46・3専農）	橘 正博（S46・3専農）	蓼沼 徳勇（S48・3専農）	森田 徳治（S49・3専農）	上田 務（S54・3専農）	羽根 正憲（S57・3専農）
---------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	----------------	---------------	----------------

同窓会事務局からの お願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業の根幹であり、運営の基となる貴重な資料です。
住所を変更された場合は、左記により農学部同窓会事務局までお知らせください。

住所変更の連絡方法

- ① 官製ハガキまたはFAX
025-2663-3107
- ② E-mail:
dousou@agr.niigata-u.ac.jp

編 集 後 記

今から約10年前、職場に渡辺糸魚川振興局長から電話があった。

「小島誠先生が君を捜している。出頭するように。併せて松涛の編集委員をやるように」とのこと。突然のことだったので私は検討させてくださいと電話を切りました。

調べてみると、当時の私の職場の上司とも仲良し、編集委員の藤巻さんはもともと仲良し、また、奥さんが同じ組織におり職場や連絡先も突き止められていたことも分かった。

困った私は、唯一の知り合いである北越農事OBの滝沢先輩に相談に行く。「やりなさい」と言われ受諾することにしました。

後でわかったことですが、滝沢さんと渡辺さんも仲良しだった。「やりなさい」と渡辺さんに電話をし、初めて松涛編集委員に参加した後、藤巻さんに連れられ小島先生と20年ぶりの再会を果たすこととなりました。ポンコツ学生だった私を20年も忘れずにいてくれた、小島先生の愛を感じた尊い時間でした。今では、途切れた縁を結びなおしてくれた先輩方に感謝するとともに、編集委員として最後の仕事、編集委員長を全うしたいと思っております。

新編集委員ともども、皆様よろしくお願いたします。

フィールド科学教育研究センターの 新たな取り組み

教授・山城 秀昭



令和6年の通常国会において、1999年の制定以来初となる食料・農業・農村基本法の本格的な改正法が成立しました。まさに、農業は大きな転換期を迎えております。改正の重要な柱として、食料安全保障の強化、農林水産物・食料の輸出強化、農林水産業のグリーン化、そしてスマート農業の促進が掲げられております。

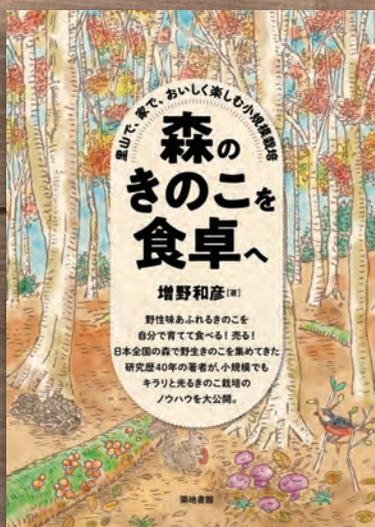
こうした時代の流れを受け、フィールド科学教育研究センターでは、農業生産の現場である農場を活用した教育・研究の方向性を、20世紀型の「効率的なシステムの追求」から、21世紀型の「人にも自然にも安全な生産システムの追求」へと転換しています。

当センターは、「デジタル×農業」やデジタルトランスフォーメーション（DX）の視点を取り入れ、地域の強みと特色を生かしながら、フィールドを舞台とした実験・実習や研究の高度化、データサイエンティストの資質を備えた人材育成を目指して教育・研究を実施しています。その一環として、2022年新通ステーションに、最新鋭のスマート田植え機（井関農機株式会社製）、作土深と土壌肥沃度を測定しながら施肥量を調整する「可変施肥機能」を備えた、8条植えの機器が導入されました。さらに、全地球測位システム（GPS）による操舵アシスト機能も装備されています。村松ステーションには、作業能率の向上や、軽労化を可能にする自動運転機能トラクター（株式会社クボタ製）や農薬散布・粒剤散布・測量一体化した自動航行型農業用ドローン（XAG Japan製）などが導入され、現場と学生の実習で活躍しております。

このように当センターは、新たな教育・研究の取り組みを通じて、さらなる発展を目指しております。加えて、令和6年3月には、村松ステーションの校舎の改装が終わり、新しくDX共創拠点として生まれ変わりました。

単行本「森のきのこを食卓へ」(築地書館)を出版

長野県支部事務局長 増野 和彦 (林30回)



森林で始まったきのこ栽培も、現在では空調施設を用いた菌床栽培が主体となりました。きのこは、森林とは遠い存在になりつつあります。さらに、国内消費量が伸びないため過剰生産となり、再生産が困難なほどに単価が下落しました。このなかで、きのこ栽培を地域の産業として維持していくために、どうしたらよいのか考え、試験研究に従事してきました。その40年間の結果を紹介しています。以下の二次元バーコードから試し読みをして下さい。

